



Rotary  第2760地区
犬山ロータリークラブ

■会 長：田中進一郎
■幹 事：高橋 秀治
■会報委員長：近藤 俊也

事務所／〒484-0081 犬山市大字犬山字西畑 22-5
電 話／0568-61-5219 F A X／0568-61-5523
U R L／<http://www.inuyama-rc.org/> e-mail／info@inuyama-rc.org
例会場／〒484-0082 犬山市大字犬山字北古券 107-1 名鉄犬山ホテル
電 話／0568-61-2211 毎週火曜日／12：30～13：30

第2693回 例 会 (H 2 9 . 4 . 2 5 火 晴 れ *)

【職業奉仕持ち出し早朝例会 於：成田山大聖寺】

点 鐘 田中 進一郎会長

R . S 手に手つないで 四つのテスト

幹事報告 高橋 秀治幹事

1) 会報受信クラブ 可茂

2) 下記クラブは法定休日又は定款 6-1 による休会です

クラブ名	例会日(曜)	クラブ名	例会日(曜)
春日井	4月28日(金)	瀬 戸	5月3日(水)
名古屋空港	5月1日(月)	小 牧	5月3日(水)
犬 山	5月2日(火)	江 南	5月4日(木)
岩 倉	5月2日(火)	春日井	5月5日(金)
名古屋城北	5月2日(火)	尾 張 旭	5月5日(金)

下記クラブは例会変更です

クラブ名	例会日(曜)	場所(変更理由)
岡 崎 南	5月9日(火)	(創立記念例会)
可 茂	5月10日(水) →5月11日(木)	(職場訪問例会)
各務原中央	5月11日(木)	(3RC 合同 パークレジャー活動)
可 児	5月11日(木) →5月14日(土)	(親睦一泊旅行)

出席報告 (吉野育志副委員長)

出席率 77.08%

会員 56名 出席 37名 欠席 19名

欠席者 紀藤政司君 真野健二君 中村大輔君
丹羽敬昇君 野村憲治君 大海敏道君
大澤渡君 谷定貴之君 塚原義成君
宇佐美芳樹君 山田直廣君

前例会の修正(4/18分)

松平實胤君(4/22 地区研修・協議会)大海敏道君(4/5 可茂
RC)祖父江寿男君(4/14 春の交通安全県民運動)高橋秀
治君(4/20 愛知 REC)谷定貴之君(4/13 第5地区社会奉
仕委員会)宇佐美芳樹君(4/23eCLUBONE)

以上 86.00%を 98.00%に修正

祝 福 (福富孝弘委員長)

おめでとうございます!!

会員誕生日 野村 憲治君

会員誕生日 宮本 照剛君

会員誕生日 谷津 義雄君

在 籍 42年 谷津 義雄君

ニコボックス (埴田惣一委員長)

本日の投函金額 38,000円





会長挨拶（田中進一郎会長）



皆さん、お早うございます。

今朝は7時から宮本主監はじめ多くの僧侶の皆さまのもと、会員の皆さまのご健康と家内安全と商売繁盛を御祈願して頂きました。宮本主監をはじめとする僧侶の皆さま、ありがとうございました。また成田山の皆さまに昨日から一所懸命作って頂きました美味しい筍ご飯を、会員の皆さまは今いっぱい食べられたことと思います。会員の皆さまになり替わりまして、筍ご飯を作って頂きました成田山の多くの皆さまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

筍というのをちょっと調べてみましたら、なんと古事記に登場しております。ということは千何百年も前に日本人はすでに筍を食べていたということになります。この筍には不思議な力があることは皆さまもご存じのことと思います。今はほとんどなくなりましたが、私が幼いころお袋に頼まれて鶏の肉を買いに行ったりすると竹の皮に包まれていたことを思い出します。竹の皮にはどうして昔の方は知っていたかは知りませんが、空気は通すけれども水は通さない。なおかつ竹の皮にある特性によって腐敗を防ぐという力がございませぬ。人間の知恵はまだ科学が発展しない昔から本当に優れたところがありました。

今、皆さまのお顔を拝見しておりますと、千年後の今頃、私たちの子孫の誰かがこの大聖寺にて護摩を焚いて頂き、筍ご飯を食べている姿が目には浮かびます。

これで会長挨拶とさせていただきます。



法話（松山 基邦職業奉仕委員長）

☆成田山名古屋別院大聖寺

法教部 法務課長 大藪 照心様

「『こだわり』について」

おはようございます。只今ご紹介にあずかりました当別院の大藪照心と申します。本日は早朝からのご参集、誠に御疲れかと存じますが、今しばらく私のお話にお付き合い頂ければ幸いです。よろしくお祈りを致します。



さて、本日は“こだわり”についてお話をさせていただきますが、まず犬山在住の画家 宇野藤雄先生についてお話をさせていただきます。

宇野先生は過去二科展に23年連続で入選を果たされて国内のみならず海外からも評価されている日本画家であります。御年90才ですが現在も絵画教室を主宰なされていたりのご活躍です。当山では4月の月末から5月の連休明けまで学童写生大会が行われます。その大会の審査員の中のお一人が宇野先生です。私が審査員の諸先生をご接待申し上げた折に宇野先生と映画について話が弾み、特に先生とは古い日本映画について造詣が深く、黒澤明先監督や小津安二郎監督の話に花が咲き、後日突然別院に来山され「この本を読みなさい」と映画の書籍をお持ち下さったり「この映画を見なさい」と丹下左膳のDVDをお貸し頂いたりもいたしました。先生の映画に対する“こだわり”は演技やセリフからカメラワークまで多岐に亘り、先生の作品も少なからずその影響を受けていることは自明の理なのであります。

また先生のお孫さんは最近メキメキと頭角を現しているフィギアスケートの宇野昌磨選手で、世界を舞台に活躍される為の技や勝負に対する“こだわり”は並大抵でないと推察を致します。

さて、宇野先生や昌磨選手のように妥協せず何かを追及することを“こだわり”という言葉で表現いたします。「こだわりの逸品」と聞くだけで何か素晴らしい物のような気がいたします。しかし仏教では“こだわり”は持つてはいけない、無くしなさいと教えます。なぜなら“こだわり”という言葉には「物事に妥協せずにとことん追及する」という意味と、反対に「ちょっとしたことを必要以上に気にする・気持ちがとらわれる」という意味もあるからです。

日本語というのは表現力豊かで繊細な言語である反面、ニュアンスや発音によって全く反対の意味になってしまう同音異義語も多くあり、とても複雑な言語であるとも言えます。たとえば「いいです」という言葉一つもニュアンスを変えれば「とってもいいです」という意味にもなり「もういいです」と否定する意味にもなります。また今時の言葉としては“ヤバイ”もそうです。「あぶない」という否定的な意味から「格好悪い」となり、今では「凄い」という肯定的な言葉と

して若者の間には普通に使われています。

“こだわり”も「何か一つのこと」に気持ちがとらわれる」ということから転じて「妥協せず一つの物事を徹底的に追及する」という肯定的な意味として使われるようになり「こだわりの逸品」という表現に辿り着いたというわけです。私自身、妥協せず一つの物事に集中して取り組む姿勢はとても素晴らしく尊いことだと思います。しかし、仏教では“こだわり”を元々の意味である「ちょっとしたことを必要以上に気にする・気持ちがとらわれる」という意味としてみた場合、結果的に“こだわり”からもたらされるのは「苦」と説いています。

「杞憂」という言葉は、中国古代の杞の国の人、天が崩れ落ちてきやしないかと心配して夜も眠れず、食べ物も喉を通らなかつたという故事からきています。必要以上に心がとらわれた結果、心配しなくていいことをあれこれ心配して、取り越し苦労で不安でたまらなくなってしまった心の状態を言います。

私自身、高校時代ブラスバンド部でパーカッションを担当しておりまして、とにかく練習を重ね完璧に演奏することにこだわりすぎて、他の部員にも完璧な演奏を求めすぎてしまったことがありました。いま思えばその頃は演奏していても気が張るばかりで、いつのまにか音楽を楽しむことを忘れてしまったようです。仏教で説く“こだわり”を無くしなさいとは、思い通りにならないこともあるのだから、もっと気楽に音を楽しめばいいのだよ、ということなのかもしれません。

「こだわらず、とらわれず、かたよらない」そんなナチュラルな状態を仏教では「中道」といいます。お釈迦様はシャカ族の王子としてこの世に生まれ、「老・病・死」に触れず何んも自由なく過ごされ、あるとき世の無常を感じ出家し、悟りを得るため苦行に身を投じます。しかし極端に苦しいだけの修行では悟りから遠ざかるだけだということに気づき、菩提樹の下、こだわらず、とらわれず、かたよらないナチュラルな心をもって悟りを得られました。極端なものの方や行動にとらわれず、適当なちょうどよいところで落ち着くことが物事を長続きさせるコツかもしれません。私の母は私が生まれる前から現在も音楽教室を経営し、自ら講師も致しております。音大も出ていない母ですが、生徒を長続きさせるコツはどの先生より秀でていていると思います。だからこそ八十になってもいまだに音楽の講師を続けていられるのではないのでしょうか。

とはいえ、冒頭で申し上げました宇野先生や昌磨選手のように、東海地方のほうでいえば先達って選手の引退を表明したフィギアスケートの浅田真央さんや、中学3年生にして最年少プロ棋士となり初戦より13連勝、先日ついに羽生善治三冠を破ってしまった藤井聡太四段のように、妥協せず一つの物事に集中して取り組み、高みを目指すことで人を感動させたり力を与えたりすることができることは、とても素晴らしいことだと思います。また東海地方、特に愛知県は製造業がさかんです。元々日本は犬山祭のカラクリ車山のよ

うに古から「物作りの国」です。多くの企業・研究所で作られられる製品はまさに“こだわり”の塊です。

春日井市に東海メディカルという医療機器メーカーがごいます。元々その前身はプラスチック加工会社だったのですが、その創業者である筒井宣政ご夫婦に生まれた次女佳美さんには重度の先天性心疾患がありました。ご両親はなんとしてでも助けたいと全国の有名病院をまわるも佳美さんが九歳の時に手術が不可能であることを宣告され、アメリカでの手術も無理だとわかり、用意した手術費用を医療機関に寄附しようとしたところ東京女子医科大学の医師から人工心臓の研究を勧められ、1981年に東海メディカルを設立されました。8億円の資金を投じて人工心臓の動物実験までこぎつけるも、人間に使用する物を開発するにはそれまでの10倍の費用と人材が必要となることがわかり開発を断念、これに代わりバルーンカテーテルの開発を始めます。実は前身のプラスチック加工会社の時に縄跳びのゴムチューブを製作していたことが開発のきっかけに繋がったそうなのですが、当時のカテーテルはすべて輸入に頼っていて、日本人の血管の太さに合わず合併症をおこしたり、カテーテルが堅すぎて幹部までたどり着けない、途中でバルーンが破れてしまうということも多くあったそうです。バルーンカテーテルは開発に高度な技術を要し、日本での生産は無理と言われていたのですが、人工心臓開発で得たノウハウを活かして、努力を重ね国内初のバルーンカテーテル開発に成功しました。

東海メディカルのカテーテルは平成元年に世に出ました。しかし、このカテーテルでは重い心臓病を患っていた佳美さんを救うことができませんでした。しかし佳美さんは両親が自分の病気をきっかけに医療機器の開発に取り組み、患者さんを救うカテーテルを開発したことをとても喜んだそうです。佳美さんは残念ながら平成3年23才でお亡くなりになりましたが、ご両親の「娘に使用しても安全なカテーテルの開発を」という強い思いは「娘のため」から「患者さんのため」に変わり、「一人でも多くの生命を救いたい」という会社の企業理念に繋がっているのです。このように「娘を救いたい」という両親の強い思い“こだわり”が多く命を救うことになったのです。

仏教は“こだわり”を無くすことを説いていますが、こだわらなくていいことに固執して、必要以上に心がとらわれることなく、仕事や趣味にはこだわって、妥協せずとことん追及する姿勢で臨むことが大切なのではないのでしょうか。

本日は“こだわり”についてお話をさせて頂きました。

最近はずいぶんと春めいてはまいりましたが、この季節、まだまだ「三寒四温」にて体調を崩しがちでございます。皆様どうかご自愛下さい。

当山ではこれからも皆様の息災とロータリークラブの発展を祈念いたしております。本日は最後までお話を聞きいただき、ありがとうございました。